

Reader's VIEW

2018 Vol.2 へのご意見・ご感想

このコーナーでは、編集部へ寄せられた読者の先生方からのご意見をご紹介します。

*『VIEW21』教育委員会版のバックナンバーは「ベネッセ教育総合研究所」ウェブサイト (<https://berd.benesse.jp/>) でご覧いただけます。

◎特集の「連続性ある英語教育」は、「使える英語力」がキーワードでした。これまでも「話す」「書く」の指導に力を入れてきましたが、高校入試や定期考査等を意識した面が強く、コミュニケーション力の育成とは少し距離があったと思います。今後は「英語を使って何ができるようになったか」を観点として評価する必要性を感じました。(青森県)

◎特集の、小・中・高と連続した使える英語の取り組みは、教育委員会の主導が必要で、現場だけでは難しいところがあります。東京都の人的支援、教材提供、研修を柱とする取り組みは参考になりました。研修の機会が誰にでもあり、五感を使った活動で、使える英語力を高めていこうとする観点がよいと思いました。(山口県)

◎東京都や福井県は先進的な英語教育を行っているので、特集でその施策に携わる方々の話を聞くことができ、大変参考になりました。両都県とも独自教材を作成されているので、学校で活用するための具体的な動きや、先生方の本音、活用後の変化など、導入後のことをもっと知りたいと思います。それが分かると、自治体や学校で参考にできる部分がさらに多くなります。(岐阜県)

◎特集では、英語教育の充実に向けてリーダーシップをとろうとしている姿勢を、福井県教育委員会に感じました。小学校英語の教科化では、自信のない担任がALTに頼るという話を耳にする中、教育委員会が「全授業」の指導案を作成し、現場の不安と負担を払拭しようとしている姿勢に学ぶべきものが多くありました。(島根県)

◎特集の事例では、滋賀県大津市の取り組みが印象に残りました。英語の授業なのに、教員自身が「話せないから」と日本語ばかり聞こえてくる授業があります。「オールイングリッシュの授業」を真正面から掲げ、取り組もうとしている大津市の気概に頭が下がります。(兵庫県)

◎連載「未来につながる学びの情景」は、ほのぼのとした話題で心が温まりました。山間部だけでなく都市部の学校においても、地域に根差した教育のあり方を模索し、自分の住む地域を愛する子どもたちを育てていかなければならないと思いました。(愛媛県)

◎連載「Leader's VIEW」で、群馬県高崎市教育委員会・飯野眞幸教育長が推進されている「学力向上は、いじめゼロの学級づくりから」と「現場の課題に即応した施策を展開していきたい」の2点にとっても納得しました。具体的な施策は、各教育委員会の考えや学校の実態によって、特徴があつてよいのだと思いました。(新潟県)

◎連載「データで教育を読む」の内容には、数多く首肯できました。日々を漫然と過ごしては、自己肯定感は育ちません。年々、何かをやり遂げる子どもが減少しているようですが、結果だけでなく、次への意欲につながる一生懸命さを大切にしたいです。そのためには、失敗や挫折にも価値を見いだすようにしていきます。(北海道)

◎連載「学力向上へのステップ」の栃木県真岡市のように、学力向上には、行政と現場が一体となり、指導サイクルの改善を図ることが大切です。目先の学力テストの結果だけにとらわれてはいけません。子どもが自己実現するための学力保障と、それを支える教職員の使命について共通認識を図る必要があります。(宮崎県)

◎妹尾昌俊氏の連載「創造的働き方改革のすすめ」は参考になります。中学校にとって部活動はとて大きな存在ですが、問題点があるのも確かです。それを解決するための議論はさることながら、中学・高校の部活動の将来像を共有することが、生涯スポーツの観点から必要だと思います。そのためにどこから変えていくかといった検討がなされるべきだと考えます。(静岡県)

編集後記

今号は連載「学力向上へのステップ」などを担当させていただきました。特に印象深かったのが、国語力強化を掲げ、語彙力や書く力の向上を目指しつつ主体性を育む、埼玉県羽生市立羽生北小学校の実践です。高校を取材する機会もありますが、生徒の語彙力や表現力を高める指導に苦慮されている高校の先生方と同じ悩みを持たれていることが分かりました。国語力の強化は、今後も小・中・高で共通する課題であり、ますます重要になると感じました。(西村)

VIEW21 教育委員会版 2018 Vol.3 2018年12月4日発行/通巻第15号

発行人 山崎昌樹
編集人 春名啓紀
発行所 (株)ベネッセコーポレーション
ベネッセ教育総合研究所
印刷製本 (株)ムレコミュニケーションズ
編集協力 (有)ペンダコ
執筆協力 中丸 満、二宮良太、長谷川 敦
撮影協力 秋山誉夫、荒川 潤、川上一生、
谷口 哲、ヤマグチイッキ

◎お問い合わせ先
フリーダイヤル 0120-350455
〒700-8686
岡山市北区南方3-7-17